

# 高等学校「現代文B」－梶井基次郎「檸檬」読解の試み

－高等学校「現代文B」高大連携授業の実践－

国語科 横井 健

平成 30 年告示の高等学校学習指導要領においては、汎用的なスキルの育成が重視され、国語はその基盤とされている。実社会・実生活に生きて働く国語の能力に重きが置かれているが、一方で「文学」でしか育むことができない能力についても目を向ける必要があると考える。今回は、愛知教育大学奥田浩司教授の協力の下、高等学校現代文の定番教材でもある梶井基次郎「檸檬」を、近年の文学研究の知見に基づいて読み直すことで、高校国語に於ける「文学」の必要性について考えたい。

<キーワード> 文学 現代文B 梶井基次郎 檸檬 レモン哀歌 高大連携

## 1. はじめに

平成30年告示の新学習指導要領では、現行の「国語総合」（標準単位数4）における近代の小説や詩歌の学習内容を新教科「言語文化」に寄せ、古典分野も扱いながら、その標準単位数を2としている。また「内容の取り扱い」では、「B 読むこと」の指導について、古典に関する指導を40～45単位時間程度、近代以降の文章に関する指導を20単位時間程度配当するものとしている。高等学校の授業の中で近代文学を扱う時間は大きく減ることになる。一方で、「読むこと」の指導内容に、「作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること」、「他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること」と記されており、現行「国語総合」の「読み味わうこと」、「評価したり、書き手の意図を捉えたりすること」という記述に比べ、主体的な読解を促し、さらに他のテキストとの比較まで求める内容となっている。高校教育の現場においては、これまで以上に限られた時間の中で、近代文学作品の言葉によって育むべき資質・能力について適切に指導することが求められているといえよう。

## 2. 実践にいたる背景

新学習指導要領の「目標」における「社会生活に必要な国語」について考えたときに、そもそも「文学」は社会生活に必要なか、という疑問が生じる（例えばキャリア教育における国語。註1）が、杉本紀子氏は「『文学』を読む意義を教養主義的な視点以外から考える機会を設けたい」（註2）という視点に立ち、国際バカロレアに準じた実践をされている。杉本氏の取り組みには文学教材の扱い方について、大きな示唆をいただいた。加えて、「文学」（の言葉）によってでしか育めない力はあるか、という問いに答えることも新指導要領を踏まえた高等学校の授業には求められるだろう。高校教育の場において文学の必要性を訴える方向性としては、例えば石原千秋氏の

「読解力」グローバル・スタンダードは、すなわち「個性」というところに落ち着きそうだ。個性こそが商品価値があるのだ。そして、文学は子供の個性をその可能性の限界まで試すことができるジャンルなのだ。（註3）

との指摘や、今回の学習指導要領改訂に批判的な紅野謙介氏の

もちろん、文学教材も重要です。優れた小説は必ずしも一元的ではなく、むしろ多元的な複数の要素からなり立っています。(略) 文学はまさに私たちの「生きる力」の根源にふれているのです。(註4)

という見解が参考になろう。本実践は、文学教材を用いた授業の教育的意義を確認し、文学（の言葉）で育成できる資質・能力を示すための試みである。

### 3. 高大連携授業の概要

私は昨年度と一昨年度、「現代文」の授業に対する関心を高め読解力の向上を図るとともに、文学テキストの言説分析および構造分析を通して論理的思考力を身に付けさせることを目標とし、奥田浩司愛知教育大学教授とともに3年生の理系クラスを対象に高大連携授業を行った（本校『研究紀要』第45号にて報告。註5）。そこででの取り組みを基にして、先に示したように、高校教育の場で近代文学を扱う場面が減少しつつある中で文学的文章を教材とした授業の意義を確認することを目標とし、3年生の文系生徒（2クラス82名）を対象に高大連携授業を行った。事前に、高等学校「現代文B」の授業で、記号論の基礎や梶井基次郎の略歴を学び、「檸檬」の主題について考察した上で、奥田先生にご協力頂き、同じ“lemon”を題材とした近代詩「レモン哀歌」（高村光太郎）との比較を通して、発展的学習につなげるという試みである（「レモン哀歌」を外部テキストとして利用）。「檸檬」を教材とした実践は、「私」の心情変化を確認することや、舞台が京都ということもあり、梶井の実生活や肺結核に結びつけて解釈する作家論的な展開に終始しがちである（註6）が、高校の授業を通して学ぶ「檸檬」の理解にとどまらず、研究者による根拠に基づく読解の方法や読みの可能性との比較を通して、高大連携ならではの深い学びにつなげる実践としたいと考えた。そのために、まず、現行の学習指導要領で重視されている以下の2点について授業・評価開発を行うことを目指した。

- 1 多様なテキスト・情報理解の育成、批評能力を育成するためにテキスト形式の理解・読解と批評ができるようにさせる。(参照 「C 読むこと」「エ 表現の仕方を評価すること、書き手の意図をとらえることに関する指導事項」。)
- 2 物語（文学的文章）の読み方（表現の型・構成）や日本における文化的意味を理解し、自分の考えや解釈の持ち方、古典文学におけるテキスト形式への批評の視点を持たせる。(参照 「ウ 表現に即して読み味わうことに関する指導事項」「エ 表現の仕方を評価すること、書き手の意図をとらえることに関する指導事項」)

その上で、新学習指導要領（「言語文化」）で示されている「エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること」「オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つこと」（参照「B読むこと (2) 言語活動例」の「イ 作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。」「ウ 異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。」学習指導要領解説 下線は引用者）へとつなげていけるよう、外部テキストを取り入れた授業開発を目論んだ。これは大学での文学研究の基本であるのみならず、2017、2018年実施の大学入学共通テスト「試行調査」において複数テキスト（資料）による出題が現代文、古文、漢文それぞれの分野でなされたことから、今後の高大接続という視点においても必要な取り組みであると考えたからである。

#### 4. 授業の実際

(1) 本文を通読し、小説「檸檬」の内容を読み取る。語句の意味に注意し、指示語などを発問しながら、ワークシートに話の筋をまとめさせる。また、人物の設定やその効果について整理させる。(1.5時間)  
ワークシートは、名古屋学芸大学教授佐藤洋一先生・知立東高等学校野々山由佳先生の知見をもとに作成した(シートNo.1・2。註7)。

(2) ワークシートを使って「檸檬」の象徴性について考えさせる。グループに分かれ、相互発表・相互評価の後、意見交換を行い、個々の考えを深めさせる。グループ学習の振り返りとともに、話し合いで解決しきれなかった疑問についてまとめさせる。きっかけ作りのため、丹藤博文氏「教科書の中の『檸檬』」(註8)および佐藤昭夫氏「梶井基次郎年譜」(註9)を配付。(1.5時間)

(3) 話し合いをもとに、班毎に発表。質疑応答。疑問点の整理。(1時間)

\*発表の様子



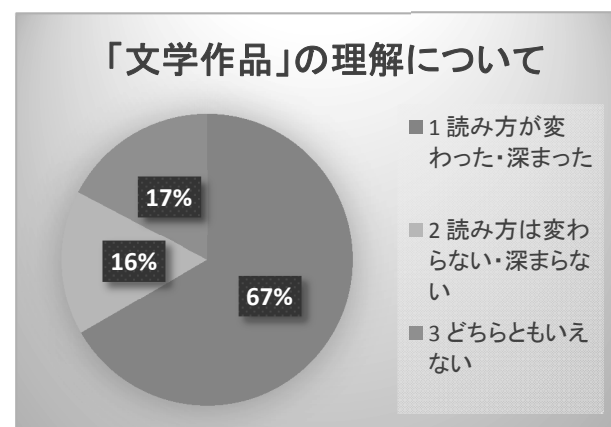
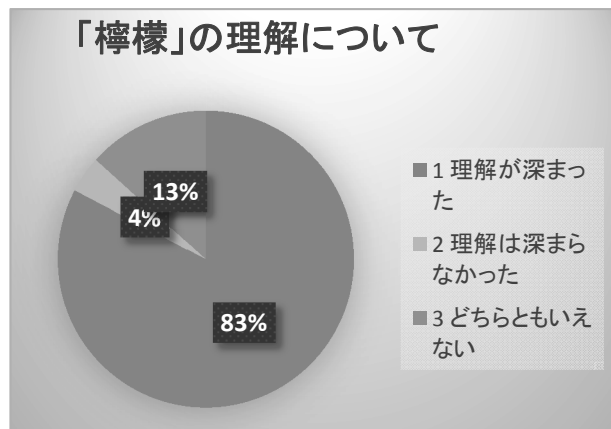
(4) 生徒の疑問(生徒の疑問は主に、「檸檬」について、「丸善」について、「私」の心情について、の3点に収斂した。一部、「・・・」「——」などの表記について疑問を持つ者もいた)を、テキスト論の知見のもとに解き明かす講義を行い、外部テキスト(「レモン哀歌」との関連を視野に入れながら文学研究の一端に触れさせ、生徒個々の読解との違い(読解の根拠の妥当性)を実感させ、今後の文学作品読解の参考にさせる。(1時間)

\*奥田先生の授業の様子。極力、生徒の声を聴いて頂いた。



## 5. 生徒アンケートから

1	講義内容(難易度)について	人数	%
	1 難しい	26	34.7
	2 丁度良い	48	64.0
	3 易しい	1	1.3
2	「檸檬」の理解について		
	1 理解が深まった	62	82.7
	2 理解は深まらなかった	3	4.0
	3 どちらともいえない	10	13.3
3	「檸檬」でさらに学びたかったこと・知りたかったことについて		
	1 学ぶこと・知ることができた	44	58.7
	2 学ぶこと・知ることができなかった	6	8.0
	3 どちらともいえない	25	33.3
4	「文学作品」の理解について		
	1 読み方が変わった・深まった	50	66.7
	2 読み方は変わらない・深まらない	12	16.0
	3 どちらともいえない	13	17.3



「感想・さらなる疑問など」(自由記述の抜粋。下線は引用者)

- ・短い時間ではありましたが、大学の文学の授業を受けることができるととても嬉しく、また楽しかったです。檸檬について新しい角度から考えることができました。文学の面白さ、難しさ、奥深さを感じることでできる1時間でした。
- ・「檸檬」の表記や梶井の西洋に対する思いなどについて考えを深めることができました。「檸檬」の舞台がなぜ京都だったのかという疑問が解けました。
- ・最後の「下る」という一つの言葉にも気持ちの下るイメージを込めていると解釈できると聞いて驚いた。他のところでも考えることができそうで、文学作品の読解は大変だけど楽しいと思えました。
- ・作品を読むときに、漢字で書かれている意味やカタカナで書かれている意味など、表記に注目するのは新しい発見だった。
- ・結局、梶井が何を言いたかったのかよく分からなかった。
- ・他の作品と読み比べることはやったことがなかったので、よい勉強になりました。
- ・「檸檬」で疑問に思っていた部分について新たな考え方をすることで、自分の中でいろいろと納得することができました。普段とは違った深く読み解く授業を受けられて良かったです。
- ・自分とは違う読み方があることを知ることができ、新鮮でよかったです。

## 6. まとめと反省

アンケートの記述内容から、多くの生徒が解釈の根拠の妥当性を検討しながら作品を主体的に読み解くことを経験できたことが伺え、授業の目標はおおむね達成できたと考えている。また、「檸檬」と「レモン哀歌」で扱われた“lemon”の違いについて、最もわかりやすいのはその表記であるが、なぜ漢字なのか、なぜカタカナなのかという問い自体が新鮮だった生徒が少なくなかった。小さいことではあるが、日本語の表現について考えるために文学教材が果たす役割の一つといえよう。契約書などの実用的な文章ではできないことである。余談だが、表記の意味については、実は大学入試センター試験でもたびたび問われている（例えば「カタカナ表記の擬音語・擬態語を使うことで、それぞれの場面の緊張感を高めている」平成 31 年 問 6 選択肢③、「3 行目と 4 行目の「アイセキカ」はわたしが意味を取れずに音だけ理解したことを示しており、これ以後の「アイセキカ」は漢字表記の「愛石家」の意味に限定されないことを表している」平成 26 年 問 6 選択肢① 等）。

一方で、「レモン哀歌」との関連付けに唐突感が否めず、戸惑っていた生徒がいたことも事実である。外部テキストを単元中のどの時期に入れていくのが適切か考える余地がある。加えて、「檸檬」の学びが必ずしも「文学作品」全般には結びついていない生徒がいることにも注意が必要である。一つの要因として、「作者」の呪縛が挙げられよう。アンケートの記述でも、すっきりしないという意見は「作者」絡みのものが多く見られた。以前も記したことだが（註 10）「作者の意図」を絶対視しては主体的な読みはできないのだが、どうしても作者（＝梶井基次郎）の意図に収斂させるべきと考える生徒は少なくない。仮に梶井の意図が分かっても他の作者に応用はできないわけで、文学作品の理解へとはつながらないだろう。資料として「梶井基次郎年譜」を配布したことがかえって仇になったかもしれない。「レモン哀歌」とあわせ、資料の提示の在り方は再考すべきだと感じた。とはいえ、授業者側からの説明が過ぎると生徒自身による気づきの機会を奪うことになりかねないので、今後慎重に検討したい。

註 1 キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」の育成 平成 28 年 6 月 28 日教育課程部会 資料 1

註 2 杉本紀子「文学と社会」大修館『国語教室』2018 年 4 月号

註 3 石原千秋『国語教育の思想』ちくま新書 2005 年 p.66

註 4 紅野謙介『国語教育の危機』ちくま新書 2018 年 p.278

註 5 横井 健「高等学校『現代文 B』－安部公房『鞆』読解の試み－」『愛知教育大学附属高等学校研究紀要』第 45 号 2018 年 3 月

註 6 丹藤博文「えたいの知れない不吉な〈教材〉－「檸檬」教材論のために－」『梶井基次郎「檸檬」の諸相 倉知亜由美追悼論集』愛知教育大学出版会 2010 年

註 7 「愛知教育大学附属高等学校研究紀要」第 34 号 2007 年 3 月

註 8 註 6 に同じ

註 9 『文芸読本 梶井基次郎』河出書房新社 1977 年

註 10 註 5 に同じ

「檸檬」(梶井基次郎) No.1 組番 ( )

ステップ1 小説(文学的文章)の読み方について学びましょう

1. 音読しましょう。
  - (1)音読の基本に注意(口の形・声量・速さ・姿勢・本の持ち方)
  - (2)意味のまとまりごとに考えながら読む
  - (3)聞いている人がよく分かるように読む
  - (4)重要なことばや表現は、間を取りゆつくり読む
2. 本文を6場面に分け、分かれ目を確認しましょう。

3. 小説(文学的文章)を読むために大切なポイントは次の六つです。確認しましょう。

(1)「状況設定」を確認する

- ①時代背景はいつか?
- ②場所・舞台はどこか?
- ③登場人物のリストアップ  
ア 中心人物は誰か?  
イ 対比されている人物は誰か?  
ウ それ以外に登場する人物は?  
エ 語り手は誰か?

オ 中心人物と対比人物の関係は?

(2)「場面構成」を確認する

\*エピソード・内容のまとまりごとの「場面」に分けて読む

- ①状況設定(プロローグ)
- ②問題の発端
- ③展開 エピソード
- ④発展 話のクライマックス
- ⑤結末(エピローグ)

(3)「中心人物の変化」を確認する

- ①中心人物のイメージの変化(見方や内面がどのように変化したか)
- ②対比人物はどのような役割を持っているか

(4)「個性的な「描写」や優れた「表現」「イメージ・象徴性」を読み取る

- ①空間性・立体性や時間感覚、視線など
- ②特有の「イメージ」の効果や役割 (例…色彩・動植物・宝石など)

(5)作品のテーマ(主題)に対する解釈  
テーマは何か?

(6)作品に対して自分の「意見」「考え」を持つ

「檸檬」(梶井基次郎) No.2 組番 ( )

ステップ2 観点を意識して感想を持ちましょう

1. 「檸檬」を読んで、興味を持った場面、面白いと思った場面を選びましょう。

場面	
理由	

2. わからない・疑問を持った場面を選びましょう。

場面	
理由	

3. この小説を読むために、大切だと思う場面・表現を選びましょう。

場面	
表現	
理由	

4. 優れていると思う「表現」や「イメージ」を抜き出し、その理由を書きましょう。

		理由
		理由

5. 私たちの周囲にあるもので、「私」にとっての「檸檬」と同じような意味を持つものは何か、考えてみましょう。


「檸檬」(梶井基次郎) No.3 組番 ( )

ステップ3 小説の構成を確認し、あらすじをまとめてみよう。

場面構成		場所・人物・時・会話・出来事	
1	状況設定	中心人物Ⅱ ( )	問題の発端 (1) 中心人物は誰か。
2	展開1	えたいの知れない (2) えたいの知れない	えたいの知れない ↓ 私の心を圧迫
	その頃の私と以前の私	焦燥・嫌悪 (肺尖カタル・神経衰弱・背を焼くような )	美しい音楽も美しい詩の一節も辛抱がなくなかった
	その頃の私	何が私を「させる」	「私を誘惑した 店頭に掲げられたいくつもの電灯が驟雨のように浴びせかける絢爛 ( )
	その頃の私	「私の行動」	ほしいままにも美しい眺めが照らし出されている
	その頃の私	「壊れかかった街の裏通り : 「私を見失うのを楽しむ : 安っぽい絵の具で塗られた火花 : びいどろ、南京玉 : 二銭や三銭だが贅沢なもの、	「にむしろ媚びてくるもの 生活が触まれる以前の私 「 が好き (オードロン、オードキニン、香水瓶、煙管、小刀、石鹸、煙草)
	その頃の私には「	「しかし」	「借金取りの亡霊
	書籍、学生、勘定台		

展開3		展開2	
4	檸檬	3	果物屋
	その日 果物屋で一顆の檸檬を買った	ある朝 「 の下宿をさまよい出る ↓ 果物屋で足を止めた	私の知っていた範囲で最も好きな店 : 「 な店ではなかったが果物屋固有の美しさ (何か華やかな美しい」 あんな色彩やあんなヴォリュームに凝り固まったというふう 果物は並んでいる。 また
	あの単純な「 も、紡錘形の「 も好き	寺町通りは賑やかな通りだが、その店頭の周囲だけが 妙に「	私を誘惑した 店頭に掲げられたいくつもの電灯が驟雨のように浴びせかける絢爛 ( )
	握った瞬間から「 が弛んできた	ほしいままにも美しい眺めが照らし出されている	
	しつこかった憂鬱が紛らわされる		
	「 というやつは不可思議		
	檸檬の冷覚 : 檸檬の触覚 : 檸檬の嗅覚 : 檸檬の「		
	つまりは 檸檬の「		

6	5
結 末 檸檬爆弾	発 展 丸善
<p>檸檬爆弾</p> <p>・本の色彩を積み上げて、この檸檬で試してみたら</p> <p>←</p> <p>先ほどの軽やかな「」が帰ってきた</p> <p>←</p> <p>「奇怪な幻想的な城」(…)</p> <p>←</p> <p>それはでき上がった。その城壁の頂きに檸檬を据え付けた</p> <p>←</p> <p>檸檬の色彩は「」色の階調をひつ</p> <p>そりと吸収し、「」と冴えかえっていた</p> <p>・そのままにして、何食わぬ顔で外へ出る</p> <p>↓ 変に「」</p> <p>「気持ち</p> <p>檸檬は黄金色に輝く恐ろしい爆弾、まもなく大爆発</p> <p>↓ おもしろい。空想を熱心に追求</p> <p>←</p> <p>活動写真の看板画が奇々な趣で街を彩っている京極を下がつていった。</p>	<p>丸善の前</p> <p>「」入れるように思えた。</p> <p>「」入っていった</p> <p>⇔</p> <p>「しかし」</p> <p>「」はだんだん逃げていった</p> <p>←</p> <p>「」が立てこめてくる</p> <p>←</p> <p>画集の重たいのを取り出す(常に増して力が必要な!)</p> <p>←</p> <p>←</p> <p>←</p> <p>次の一冊を引き出し出てくる</p> <p>←</p> <p>一度バラバラとやってみなくては気が済まない</p> <p>そこへ置いてしまう</p> <p>←</p> <p>「」になり本の群れを眺める</p> <p>檸檬を思い出した</p>

6	5
<p>「檸檬」(梶井基次郎) No.4 組番)</p> <p>ステップ4 ①「私」の設定とその変化を読み取りましょう。</p> <p>1. 人物の設定とその効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酒を飲んだ後に宿酔があるように、酒を毎日飲んでいると宿酔に相当した次期がやってくる。</li> <li>・肺尖カタル 神経衰弱 借金</li> <li>・始終私は街から街を浮浪し続けていた。</li> </ul> <p>ここから、どのような人物として描かれているか考えましょう。</p> <p>2. 「私」の変化とその要因</p> <p>作品の中で、「私」の心情の変化が起こります。変化した場面とどのように変化したかを、その要因も含めて考えてみましょう。</p> <p>その頃の私</p> <p>みずばらしくて美しいものに強くひきつけられた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壊れかかった街</li> <li>・安っぽい色合いの花火</li> <li>・びいどろ、おはじき、南京玉</li> </ul> <p>↓ 親しさ ↓</p> <p>  </p> <p>丸善が好きであった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オードロン、オードニキン</li> <li>・香水瓶</li> <li>・煙管、小刀、石鹸、煙草</li> </ul> <p>↓ ↓ ↓</p> <p>《変化のきっかけ》</p> <p>「檸檬」を買う</p> <p>檸檬の冷覚 ……</p> <p>檸檬の触覚 ……</p> <p>檸檬の嗅覚 ……</p> <p>檸檬の視覚 ……</p> <p>←</p> <p>軽やかな「」</p> <p>「、誇りかな気持ち、私は「」</p> <p>《変化のきっかけ》</p> <p>丸善への入店</p> <p>←</p>	



幸福な感情がだんだん逃げていった

憂鬱、「」

・香水、煙管、画集（アングルの重い本） 〓 〈 〉

堪えがたさ

《変化のきつかけ》

檸檬を憶い出す … 軽やかな「

第一のアイデア … 積み重ねた画本の頂上に檸檬を据えつける

=

上出来 … 「奇怪な幻想的な城」 跳り上がる心 緊張

第二のアイデア … 檸檬をそのままにして、何食わぬ顔で外へ出る

=

黄金色に輝く恐ろしい爆弾を仕掛けてきた「」が私

丸善が大爆発 ↓ どんなにおもしろいだろう

「気詰まりな丸善も木端微塵だろう」 ↓ 「

← 解放された私 「から

活動写真の看板画が奇体な趣で街を彩っている京極を下がっていった

### ステップ5

② 対比的人物とその効果を読み取りましょう。

1. この作品における対比的人物は？

\* 対比的人物とは、中心人物の行動や考えを際立たせたり、中心人物に影響を与えたりする役割があります。

2. 「友達」の様子

ここから「私」のどのような特徴が浮かび上がってくるか考えましょう。

## 「檸檬」（梶井基次郎）No.5 組番（ ）

### ステップ6 「檸檬」について

1 「檸檬」とはそもそもどういうものか、確認しましょう。

① ミカン科シトロン類の常緑低木。インド原産。高さ約三メートル。葉は楕円形。ミカンに似た白色五弁花を年中開く。果実は紡錘形、外皮は初めは濃緑。熟すれば美しい黄色、芳香が高い。果汁も香りが高く、クエン酸・ピタミンCを含む。食品に香味を添え、ジュースなどに広く用いる。（季秋） 『広辞苑』第六版 岩波書店

② 果実は香気に富み、一〇〇〜二〇〇グラム、果皮はクリーム黄色で柔らかい。檸檬の原産地はインドであるが、古くヨーロッパに伝えられ、さらに新大陸に伝わった。日本ア高温多湿、冬は低温すぎて、そうか病・かいよう病・寒害などが多発し栽培がむずかしい。日本では年間約55億円（1988）を、主としてアメリカから輸入している。（『大日本百科事典』第二版 小学館）

2 「私」ととしての「檸檬」とはどういうものだったのでしょうか。

3 「檸檬爆弾」を爆発させることで、何を期待したのでしようか。

### ステップ7 象徴的イメージと主題の構造を読み取りましょう

1. 次のものは何を象徴していると考えられますか。

① 「丸善」

②

2. この作品の主題は何でしょう。

※参考（新傾向入試問題）

・筆者がこの文章で主張したいことを「予防としての易しさ」と「治療としてのやさしさ」という二つの語句を必ず使用し、五〇字以内で答えなさい。（信州大学2018）  
・ i 筆者の考えを一五〇字以内で説明しなさい。 ii iを踏まえて、あなたの意見や考えを一五〇字以内で述べなさい。（静岡大学2018）

主題とは：作品によって伝えられる中心的なメッセージのことです。

大きく分けると、次の三つに考えられます。

- ① 作家の主題：他作品などでも多く見られる作家の意図した問題意識・メッセージ。
- ② 作品の主題：作品の構造・人物の変化に見られるメッセージ。
- ③ 読者の主題：読者が作品から自由に受け取るメッセージ。

「檸檬」(梶井基次郎) No.6 組 番 ( )

ステップ8 探究活動(読みの可能性)

- 1 「私」について
  - ① 心理(焦燥・嫌悪・興奮・幸福)
  - ② えたいの知れない不吉な塊
- 2 「檸檬」について
  - ① 檸檬の魅力
  - ② 当時の檸檬、私にとっての檸檬
  - ③ 檸檬の象徴性
- 3 地理・空間について
  - ① 京都とそれ以外の街について
  - ② 丸善と京極(を下がっていった)の関係
- 4 作者梶井基次郎との関連について
- 5 その他

私の選んだテーマはこれです。

3年 組 番 氏名

班名

番号

※5の人は具体的に記入すること

\*選んだテーマを中心に、三分間の発表をしましょう。

「檸檬」(梶井基次郎) No.7 組 番 ( )

ステップ8 わかりやすい発表をしましょう(グループ学習)

- 私が考えた「檸檬」の世界
- ・主題
- ・見解
- ・根拠となる記述・資料など(図を用いてもよい)

「檸檬」(梶井基次郎) No.8 組 番 ( )

ステップ8 わかりやすい発表をしましょう(グループ学習)

私たちが考えた「檸檬」の世界

・ 主題

・ 見解

・ 根拠となる記述・資料など(図を用いてもよい)

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

「檸檬」(梶井基次郎) No.9 組 番 ( )

ステップ9 わかりやすい発表をしましょう・聴きましょう(グループ学習)

「檸檬」の主題について、分かりやすく具体的に語りましょう。  
友達の発表を聞いて、自分の意見を持ちましょう。

1 友達の発表を聞きながら、◎・○・△をつけましょう。

聞き方				発表のまとめ方			メモ欄
⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	
気付いたことはメモをとりながら聞くことができました。	自分の考えと比較しながら聞くことができました。	友達がどんな点を中心に「檸檬」を読んだかを考えながら聞くことができました。	発表をする友達の方を見ながら聞くことができました。	自分が作品から受け取ったもの、感じたことをはっきりさせることができました。	本文の内容に即して、相手を意識しながら、主題について説明することができた。	関心を持った課題を選ぶことができた。	

2 関心を持った発表について、感想・意見を持ちましょう。

\*もつとも参考になった・感銘を受けた発表は「 」班

3 今日の学習を終えて「わかったこと」「考えたこと」等を書きましよう。

・自分にとっての「檸檬」的なるものは何か？

4 さらに深く考えたいこと、知りたいこと・不明なことを記述して下さい。